

# 埼玉・教会・壮年

NO. 10号 2011年2月発行

## 「これでいいのか？ 今の教会」から

## 「さあ、どうする」への プロセス

日本基督教団関東教区埼玉地区の壮年部（委員長・松下 充孝大宮教会員）は、信仰の継承や高齢者問題などを中心にこれまで取り組んできた。2年前の2009年は、日本へのプロテスタント宣教150周年の記念すべき年だったが、その前年、2008年の教団総会に報告された「このままでは教団の明日はない」との「教団50年データ」を直視。若者たちが教会から消え、子どもたちのにぎわいも聞かれなくなった、お年寄りばかりが目立つ教会の現状への打破を目指して、信徒としての対応策を自ら探る試みに取り組んだ。

教勢の低迷は教団が特に著しく、カトリック教会をはじめ、福音系の教会は逆に伸びているという指摘がある。このため、2009年には1500人の教会員を擁する福音系のカンバーランド長老教会 高座教会（神奈川県大和市）の松本 雅弘牧師を、2010年には7月に日本同盟基督教団の西大寺（さいだいじ）キリスト教会（岡山市西大寺）の赤江 弘之牧師、11月には同じく土浦めぐみ教会（千葉県土浦市）の清野 勝男子（せいの・かつひこ）牧師をお招きして、学びの時を持った。

共通するキーワードで表すならこれらの教会はいずれも地方都市、礼拝を1日に数回に分けて実施、信徒の主体性、自主性が尊重されていること。礼拝以外に各年齢層別の多彩なプログラムが用意され、礼拝する日曜日以外の平日を利用した充実した教会員の教会内での過ごし方

の中に、独りぼっちにさせない孤独からの救済策など数々の気配りが見受けられる。「〇〇やりたい人この指止まれ、」と言う具合に、書道や料理、コーラスなど趣味やスポーツなどを楽しむ120の小グループがあるという高座教会。ボーイスカウトの規模では岡山県内一を誇るという西大寺教会。土浦めぐみ教会には、親子で共に教会で快適に過ごせるように配慮した「ジョイクラブ」。他に「めぐみ音楽祭」「めぐみ芸術展」「めぐみ祭り」…。夕方6時から「若者による若者のための集会（オープン礼拝）」、西大寺教会も若者向けにカフェ伝道、音楽伝道を展開する今風のクロスロード・チャーチがある。「長老たちはOK。私は抵抗したが承認した」。

「教会は礼拝するところ。遊びのプログラムなんて、第一、そんな余裕は…」と言うなかれ。昨年11月の壮年部講演会の開会礼拝で大宮教会の疋田 國磨呂牧師は、7つのパンと少しの魚で4千人の空腹を満たしたイエス様の奇跡の御言葉を通して「イエス様は霊的な渇きを満たされるだけでなく、群衆の肉体的な渇き、空腹をも心配し、満たそうとされるお方である」と的確な表現で説教しておられる。「大規模な教会だから…」というのも苦し紛れの言い訳。小さな教会は小さいなりの特徴を生かしたアットホームな教会が実現できる要素は十分にあるはず。「牧師一人の力ではとても」それは当然だ。元気で活発な教会はいずれも信徒自身による意欲的なボランティア精神が教会を支えているのだ。

「日本人の人口の1%をクリスチャンに」と、永年主張している古屋 安雄国際基督教大学（ICU）名誉教授は言う。「一般信徒は説教をただ聞くだけ。牧師中心主義の姿勢が固定化。牧師は教会という組織の信徒の管理者となり、信徒は被管理者となって、伝道にこぼった人になってしまった」（日本のキリスト教・教文館）。信徒が何か提案しても牧師が管理者的発想に立ち、役員会・長老会もまた、官僚主義に陥り、こうした信徒の意欲的な芽を摘み取ってはいないか。特に教団教会の教職信徒は共々よく考えて見る必要がある。

教団予算決算委員会がまとめた「教団50年データ」の中で、自ら反省し、指摘する「求められる信仰的面倒見の良さ」の通り、これらの教会は、いわゆる「信徒に信仰的面倒見の良い教会」であることが分かる。また、地域への関わり方、地域へ密着するための労力、努力、祈りがある。それは幼児教育であったり、高齢者介護などの地域福祉であったり、教会が地域のニーズにどれだけ応え、地域に喜ばれる、歓迎される教会を目指す姿勢こそが重要なのだ。土浦めぐみ教会は、教会の高齢者の会が、介護保険指定事業へと発展し、教会員の高齢者に加え、地域のお年寄りたちのデイサービスなどを実践、西大寺教会もまた、在宅介護サービスをはじめ、有料老人ホームが建設されようとしている。特に、西大寺教会は、引き籠もりなど不登校の児童生徒を対象とした全学科、全教科を教える学校教育の代替措置ともいえる「フリースクール」を開校、画期的な注目すべき事業を立ち上げた。「地の塩」「世の光」として、社会的にも精神的にも地域と密接に結び付くことが、イエス・キリストの福音を証していくことであり、主に栄光を帰す道であり、最大の伝道にほかならない。

「これでいいのか？今の教会」と地区壮年部は、過激ともいえる問題提起をした以上、「さあ、どうする」に取り組むのは義務だ。そのプロセスは議論を通り越して実践段階にある。地区内教会壮年の皆さん、共に祈り、立ち上がろう。

第一部 開会礼拝 説教「主に用いられる弟子たち」

「主に差し出すことによる豊かな恵みの展開」



「肉体的渴きの求めにも応えるイエス様」

「7つのパンと少しの魚で4千人の空腹を満たした

イエス様の奇跡」からのデボーション

大宮教会牧師 疋田 國磨呂(ひきた・くにまる)先生

イエス様が約4千人の人々に食事を与えられたという出来事が記されているマルコによる福音書第8章1～10節は、日本基督教団聖書日課の一昨日、11月26日(金)に掲げられた聖句。これをデボーションしたものを皆さんと分かち合いたいと思う。

「群衆がかわいそうだ」

私はこの箇所を通して一つ示されたことは、2節、イエス様が「群衆がかわいそうだ」とおっしゃっていること。大勢の群衆が3日間もイエス様と一緒にいた。おそらくイエス様から神様のお話をうかがい、また病気の人々は癒されたりして本当に満ち足りた3日間ではなかったかと思われる。群衆は空腹さえも感じないほど霊的に満たされていたのではないか。しかし、イエス様は何も食べるものがなく、空腹のまま家に帰らせることはかわいそうだ、心配されてそれを弟子たちに訴えておられる。私たちは毎主日こうして礼拝に集って、牧師

を通して御言葉を解き明かしていただく、霊的な糧をいただき、満たされる。イエス様は群衆の霊的な渴きを満たされるだけではなく、群衆の肉体的な渴き、空腹をも心配し、満たそうとされるお方である。やはり、私たちは霊的な満たしだけではなく、肉体的空腹をも満たされないと、生活ができない。イエス様はそれをきちんと受けとめて「群衆はかわいそうだ」「3日間も私と一緒にいて何も食べるものがない」と言って、それを弟子たちに訴えられた。私はイエス様のそのような霊的な満たしだけではなく、私たちの肉体的な空腹や渴きにも心配されるお方であることを信じたいと思う。

「弟子たちによる解決をし向ける」

それから2番目にイエス様は群衆の肉体的問題を弟子たちの手で解決するようにし向けておられる。弟子たちはイエス様の訴えを聞いて、こんな人里離れたところで一体どこからパンを手に入れ、これだけの人に充分食べさせることができるでしょうか、

と言っている。弟子たちは群衆を見て、早速パッパッと計算するわけですね。6章に、男だけ5千人の給食の話が出ている。そこでは200デナリオンという計算をしている。200デナリオンというのは、200日分の賃金に相当する額だ。それだけの額でもって買ってきても果たしてこれだけの群衆の腹を満たすことができるでしょうか、と6章の方では言っている。ここでは、「これだけの人に十分食べさせることができるでしょうか」。これは私たちがふと漏らす姿ではないでしょうか。

### 「イエス様の祝福の祈り」

大宮教会は道路拡幅問題で、間もなく会堂再建しなければならない。「さて、これを全体建て直すにはいくらいるんでしょうか」と、まず、きっと計算が始まるわけ。でも、イエス様は「パンはいくつあるか」。弟子たちは「7つです」。この答えを聞いてイエス様は、群衆に地面に座るように命じられる。弟子たちが7つと言ったそのパンを受け取って、その祝福の祈りをして、それを弟子たちに分けて配らせた。少しの魚もあったが、その魚も受け取って讃美の祈り、感謝の祈りを捧げて弟子たちに配らせた。皆、満腹した。

### 「ここから私たちは何を聞くか」

約4千人の人々がそこにいた。7つのパンと少しのお魚でイエス様は4千人を食べさせた奇跡の出来事だといわれているところだ。ここから私たちは「何を聞くか」ということだ。弟子たちに「パンはいくつあるか」というと、「7つ」という。きっと、皆さん、私たちは「7つしかありません」

「この7つのパンで何ができるでしょうか」「魚は少しあります。こんな少しだけでは何ができるでしょうか」と発想してしまう。でも、イエス様は7つしかないパン、少しの魚を受けとめて、そしてそれを祈って配らせた。私はここに弟子たちが問われ、そして弟子たちがなすべきことがあるのではないかと思う。今日、父と子と聖霊の名によってバプテスマを受けた者は皆イエス・キリストの弟子だといわれている。

### 「主よ、お用い下さい」

私たちは弟子なのだ。弟子として主が問われたときに、私たちは「これ7つしかありません」「魚少ししかありません」といってそれをおさめてしまうだろうか。7つしかないパンであっても、少ししかない魚であっても「主よ、お用い下さい」と差し出すならば、主はそれを受けとめて、祝福して豊かな実りを下さる。もし、主の弟子である教会員一人一人が「これだけしかないけれど、主よ、どうぞお用い下さい」と、それぞれが7つのパンと少しの魚を差し出したらどうなるか。私はそのことを想像してみた。

### 「素晴らしい豊かな恵みの展開」

弟子たちは7つのパン、少しの魚を差し出した。イエス様はそれを受けとめてそれを祝福して配らせた。お互いに少ししかないものを「主よ、お用いください」と、互いに差し出し合っていたら、そこに素晴らしい豊かな恵みの展開が起こるのではないか。イエス様は霊的に私たちを満たして下さる。でも、私たちは肉体的な渇きの問題や空腹の問題、いろいろある。「計算したら

とてもこれだけのお金ではできない」と思うかもしれない。でも、その問題を主の弟子たちに、イエス様は自分たちで出し合って、少しでもいい、ささげ合って、そしてそれを解決しなさい、とおっしゃっているのではないか。私たちはデボーションを通してそういうことを思った。

### 「大きな大きな主の業」

主の弟子とされた一人一人がそれぞれの持てるものを、それは少しかもしれない。「主よ、どうぞあなたの業に用いてください」と、お互いに差し出していたときに、大きな大きな主の業がそこに実っていくことを示された。

### 「少しのものを互いに差し出す」

お互いの教会において、それぞれこうした主日の礼拝ごとに霊的に満たされる。でも、現実、私たちは人間だ。お互いの教会、肉体的課題がいっぱいある。主は、それに対して「パンはいくつあるか」と聞かれて、私たちがお互いに少ししかないものを差し出すと、受けとめて下さって、そして業を成して下さるのではないか。7つのパンが差し出されなければ、そこに奇跡は起こら

ない。祈ります。

父なる神様、4千人の人々を、食事を満たして下さったイエス様の出来事を通してデボーションした一コマを証させていただいた。どうぞ、お互いにこの出来事を通して主が弟子たちに求められたことを、どうか私たちもその主の弟子として、主が求められていることを受けとめることができるようにして下さい。主イエス・キリストの御名によって祈る。アーメン。

### 疋田 國磨呂 牧師プロフィール

1943年5月14日、石川県羽咋市の植木屋を営む商家の4人兄弟の末っ子として誕生。父親は日蓮宗の檀家総代を務める熱心な仏教徒。18歳の時にラジオ放送のルーテルアワーを聴いて日本基督教団羽咋教会に。61年クリスマスに同教会で受洗。明治学院大学文学部英文科を卒業。東京神学大学3年に編入。卒業後、東京教区南支区・柿の木坂教会、中部教区・福井神明教会を経て88年4月、大宮教会に着任。現在、日本基督教団関東教区長。勝子夫人は同教会副牧師。一人息子、長男の義也君は東京神学大4年在学。

**第一部 開会礼拝** 司式 松下 充孝兄 (大宮教会)、

前奏 奏楽 勝野 昌子姉 (大宮教会)

賛美歌 56 (主よ、いのちのパンをさき)

聖書 マルコによる福音書8/1~10 祈祷

説教 「主に用いられる弟子たち」 疋田 國磨呂牧師 (大宮教会) 祈祷

賛美歌 248 (エッセイの根より)

献金

後奏

「誰でもホッとする群れに向かって」

～地域との結びつきを大切にする教会～

「席上献金をすべて廃止」「高齢者の会が福祉事業に発展」



「孤独にさせない、面白い、楽しい教会」

「全年齢層が豊かな福音に生きる」

日本同盟基督教団 土浦めぐみ教会

主任牧師 清野 勝男子（せいのかつひこ）先生

私たちの土浦めぐみ教会は面白い教会で、私自身も非常に楽しくやっている。まだ20年だが、楽しくやっているだけではなく、神様がその教会の中で仕事、業をしておられる。その意味では私は神様の業の証人に過ぎない。神様の業を紹介するのは楽しいこと。二人の役員と共に来た。

#### 「宣教と学究で海外に15年間」

私自身、日本の神学校を出て5年間愛知県の教会の牧師をした。その後、宣教師としてインドネシアのジャワ島で、11年間働いた。さらにアメリカで宣教学を勉強した。合計して15年、海外に行っていた。20年前に帰国、土浦の教会の牧師になった。15年も海外にいたので、逆カルチャーショックを心配してくれた友人がいた。私は「全く問題ない」と応えた。後で気がついたが周りの人が文化ショックを受けていたようだ。

私たちの教会は本当に面白い教会、楽しい教会だ。これは事例であって説得するも

のではない。事例をスライドで紹介したい。

#### 「喜楽希楽（きらきら）サービス」

土浦めぐみ教会の紹介一。7年前に始めた介護保険指定事業のデイサービスや訪問介護をしている喜楽希楽（きらきら）サービスについて、それを始めるに至ったその前の十数年間にわたる教会での働きを話したい。実は「喜楽希楽会」というお年寄りの会がある。お年寄りの会を始めてそれから喜楽希楽サービスに発展していったその経過をまとめたものがある。それを紹介できればと思う。もし、時間があれば、私たちの教会は葬儀について勉強し、教会独自に葬儀のやり方をいろいろ工夫している。

#### 「聖書的通過儀礼の改革」

日本宣教を進めていく上で、日本で教会を立て上げていく上で、キリスト教葬儀文化というものをしっかりと造り上げていく必要があるのではないか。私たちの教会では聖書の意味がはっきりした通過儀礼、聖

書的通過儀礼の改革をやってきた。例えば、生後間もない赤ちゃんが対象の献児式、11月の幼児祝福式、成人祝福式、新居定礎式、葬儀など、全生涯、全領域にわたって豊かな福音に生きるめぐみ教会の理念を実践している。

### 「アメリカ人宣教師が開拓伝道」

最初に土浦めぐみ教会の紹介と喜楽希楽会から喜楽希楽サービス、高齢者介護の発展を紹介したい。1954年(昭和29年)、アメリカ人の宣教師より始まった。今、土浦市郊外の4万坪の水田の中に教会がある。めぐみ教会の物理的条件と文化的立地条件をみると、昨年(2009年)の5月に教会のすぐ後ろに、北関東最大のショッピングセンターのイオンが开店し、たくさんの方が来て駐車場には2万台が入る大きなショッピングセンターになった。こんな大きいものがきて教会に何か悪い影響が出るのではないかと、かなり心配した。しかし、今のところいい影響ばかりで、教会員は買い物ができるし、私は赤い屋根の牧師館に住んでいるが、すぐ後ろに大型の“冷蔵庫”ができたようなもので、私たち家族は喜んでいる。

### 「3500坪、300台入る駐車場」

イオンの屋上から見ためぐみ教会のサイド。イオンの駐車場の奥の赤い屋根が牧師館、左側がチャペル、ピスガという納骨堂がある。赤い屋根の奥にあるのが教会の礼拝堂。その左下の小さなプレハブが教育館。白い車の止まっているところが駐車場だ。3千500坪で車は300台は入る。教会は国際都市つくばから車で15分。会

員の60%の方はつくばから来ておられる。郊外型教会で、バスや電車の便は悪い。バスを降りてもかなり歩かないと来れないところで、駐車場の問題が大きなネックになる。

教会の規模は駐車場の数以上にはなれないと最近感じている。家族で来る人もいるが、1台当たり平均して2人。郊外型はこういう現状がある。この20年間、次から次へと駐車場を買い増してきた。

### 「子どもから大人まで600人」

日曜日の教会の様子だ。子どもから大人まで入れると約600人が教会にやってくる。人数の多いこともあり、年齢層別の礼拝とプログラムを考えている。一人一人を大切にすることというのは、その年齢を大切にすることではないか。世代を大切にすることではないか。なぜなら世代こそが一番重要な文化的な区分になると考える。

全員一度に礼拝ができないこともあるが、年代別の礼拝を少しずつ少しずつ進めてきた。まずは一番下のクラス。親子と一緒に礼拝する「ワンツークラス」。ゼロ歳児から2歳児の子が親と一緒に礼拝する。

### 「屋スポ、室バラ、童歌」

次に幼稚科。3歳児から5歳児の約60人。小学科は上級生と下級生の2つに分けて礼拝している。合計で約60人。幼稚科、小学科は礼拝が終わると、大人も親も一緒に礼拝に来ているので、交通の便が悪いので子どもたちは帰れない。このため、子どもたちの礼拝が終わった後のプログラムも作っている。「ジョイクラブ」。子どもたちは選べる。屋スポと室バラ、童歌だ。屋ス

ポは屋外スポーツ、室バラは室内バラエティーだ。屋スポは、外で遊んだり、プールに泳ぎに行ったり、町に出ていったりする。室バラはケーキを作ったり、かき氷を作ったりして食べる。家族で教会に来るので、家族が教会にいる時間帯は全年齢層のプログラムを開拓する必要がある。

中高科は中高生にふさわしい讚美形態の礼拝をしている。約40人。信仰の継承を必死に祈りつつやっている。

### 「1日3回の1時間礼拝」

日曜日の朝は、8時半からと10時からと、11時半からの3回の1時間礼拝をしている。1時間で終わるようにしている。パワーポイントを多用してドンドンやる。

第1礼拝は、教会学校の教師とか、奉仕者が多い。あとは何か用事でどこか出掛けたいという人は朝早く8時半からの礼拝に来て早く帰られる。中高科の先生たちは第1礼拝に出て、第2礼拝で中高科の礼拝をしている。第3礼拝の裏では中高科の分級をしている。

### 「めぐみうどん(350食)」

第1に教師たちは出る。教師は朝、8時半に来て12時半まで、第1礼拝に出た後、第2、第3の裏で中高生のために奉仕をして、それで「めぐみうどん」(350食用意)を食べて、教師会などして2時、3時からいまで毎週そんな感じで奉仕してくれている。

今年(2010年)の受難週の礼拝では、「マタイ受難曲」の合奏、合唱をみんなでやった。毎月礼拝企画委員会があり、毎回多用な礼拝の企画を立ててくれる。

### 「大胆な礼拝改革」

2007年度には新来者が毎週5~6人来る。誘ったりしてくるわけだが、その新来者に配慮して大胆な礼拝改革をした。例えば、日曜日の礼拝で「席上献金」をすべて廃止した。モデルになるかどうか、神学的問題もあり、難しい。私たちの教会の場合、特殊性がある。

### 「新来者が年間約350人」

毎週、新来者が5~6人いる。年間で約350人。新来者カードがドンドン貯まって、副牧師、教育主事、青年主事、事務長、音楽主事ら7人いるフルタイムのスタッフに対して月曜日に「昨日来た新来者と会ったか」と聞くと誰も会わなかったという。これは例外。いつもはきめ細やかにが第一。

献金の時に、いつも「これは神様への感謝と献身を表すものです。意味の分からない方やご用意のない方は献金のかごを見逃ごして下さって結構です」と、毎回言ってどうだろうかという話になった。

### 「席上献金は半強制的？」

新来者を誘ってきて、やはり献金というものがあると、かごが回ってくればやはり半強制的になってしまう。いっそのこと止めたらどうかという意見が出て止めてしまった。

新来者の献金に頼らず、教会員には月定献金というものがあると、それで必要を補っていこうということになった。教会員の皆さんは意識的に月定献金の項目の中に礼拝献金と書いてプラスして出してくれている。どうしても献金したい方には礼拝堂後方と受付ホールに献金箱が用意されている。

### 「聖餐式は毎月1回から年4回に」

また、毎月1回聖餐式をしていたが、それを止めて年間4回だけにするとか、新来者にとって敷居を低くしよう、敷居をなくそうということでかなり大胆な改革をした。めぐみ教会の現状からのことであり、あまりほかの教会のモデルにはならないと思うが、そんな大胆なこともした。

### 「礼拝の裏側での『裏番組』」

礼拝の裏側で「裏番組」と呼んでいるが、3回やる礼拝の第2、第3礼拝の裏に自由にいろいろな集会を開いている。

80人くらい園児がいる幼稚園の園児の両親で未信者を対象にした父母クラスでは、卒園した園児の父母が教師となって、聖書の話の日曜日にしてくれる。

英語クラスは、英語圏からの方や国際結婚した方、帰国者を対象に、英語で讃美し、英語でメッセージを聴いたりしている。信徒がやっている。

韓国語のクラスは上級者と初心者の2クラスある。純粹にただ韓国語を勉強しているだけ。韓国人の方が30人くらい教会に来ている。素晴らしいクリスチャンたちで彼らが教えてくれる。

第3礼拝をしている間に下ではお昼の準備をしている。「めぐみうどん」というのを作って食べる。メニューは「めぐみうどん」と買って来たパンを買ってみんなで自由に食べる。

### 「3時、4時まで家族で教会に」

日曜日の午後は、大体皆さん家族みんなで見えているので大人も子どももそれぞれの年齢に応じて遊んだりしてなかなか帰ら

ない。3時、4時まで遊んで三々五々帰られるのが現状だ。

### 「夜は若者による若者のための集会」

夜6時から7時まではオープン礼拝。若者の若者による若者のための集会をしている。現代的な讃美をして自由で、ものすごいにぎやかな、時々私の世代ではうるさすぎるような集会をしている。彼らは終わるとイオンに食べに行く。

### 「めぐみ憲法」

めぐみ教会には理念があり、牧会哲学、教会の憲法みたいなもので、これに沿って自由にやろうというものだ。最初は聖書信仰に立ってというものだ。

「聖書は神の言葉にして信仰と実践の唯一、最終の規範であると告白する。教会はこの神の啓示に基づくもので、宣教、教育方針の活動はもちろん教会の運営も聖書を通して語られる教会の頭である主イエス・キリストの御旨に従うものである。それ故私たちは主日礼拝の説教をはじめ、あらゆる機会に聖書全体から神の御声を聞くことを求める。

### 「聖書の真理を生き生きと体験」

また、常に聖書を学び、絶えず祈りをして日常生活に聖書の真理を生き生きと体験し、その証を自分の言葉で表現することに励む」

日曜日の成人科クラス。信徒の皆さんが自主的に聖書を勉強し、順番で発表し合っている。聖書を学び、体験し、自分の言葉で証する、ということを実践している。

### 「賜物の開発と奉仕の生活」

「豊かな福音に生きる」では、「教会が伝えるキリストの福音は、豊かな内容を持つものである。聖徒たちの信仰生活も信仰義認と新生に始まり、あらゆる点において絶えず成長し、頭なるキリストに達するのである。それ故私たち一人一人は主への献身を強くし、人格形成においてますます聖化され、賜物の開発と奉仕の生活へ絶えず成長することを追求する。私たちは成長を求めて学びと訓練と奉仕に喜んで励み、個人の中に福音の豊かさが日々体験されることを求める。私たちはキリストの香りを放つ家庭の建設を祈り、教会の熱心なとりなしと両親と子の正直な交わりによって信仰の継承が着実に為されて家庭の中に福音の豊かさが無限化されることを求める」。

### 「献児式」「幼児祝福式」「成人祝福式」

子どもたちを大切に幼児祝福式とか、いろいろなことをしている。献児式もする。命名の由来となった聖句に曲を付けてその子の歌として全員で讃美しながら前に出てきて献児式をする工夫をしている。それから成人祝福式。新居の定礎式もする。

お葬式も全生涯、全領域で豊かな福音に生きるということで頑張っている。

### 「めぐみ音楽祭、芸術展、祭り」

「めぐみ音楽祭」とか「めぐみ芸術展」とかもしている。8月の最後の日曜日には「めぐみ祭り」がある。教会員の子どもが夏休みが終わり学校に帰ったら「夏祭りの思い出」の作文を書くようにいわれるが、教会員の子どもは夏祭りに出していない。土浦は非常に保守的なところで神社と結び付

いた祭りがある。熱心な教会員は子どもを夏祭りには送らない。それで作文が書けなかった。「それじゃあ、かわいそうだ」ということで、「教会で祭りをやろう」となって、「めぐみ祭り」を始めた。最後は盆踊りの「めぐみ音頭」をやる。600人から700人の幼稚園の子ども、おじいちゃん、おばあちゃんからみんなで浴衣を着て踊る。

### 「キリストにある世界性の体験」

理念の3段目は「グローバルな教会」、「国際的な教会」だ。こんな風に宣言している。「キリストの福音はいかなる民族、文化、国籍にあっても信じるものを救う神の力である。それ故教会という聖徒の群れはもともと全人類的なものであり、全世界的なものである。教会が持つものはキリストの福音の普遍的力であり、キリストの教会の世界性である。そして世界宣教の使命が教会に託されていることを告白する。それ故私たちはこのめぐみ教会の中でキリストにある世界性が体験できるように企画し、若者たちがやがて国際社会で貢献できるように配慮する。私たちは世界宣教のために祈り、人を派遣し、支援し、あらゆる方法として主の宣教命令に忠実であるように努力する。また、様々な方法で世界宣教を担う献身者をいつも生み出し、育成する教会であることを追求する」。

### 「教会の民族衣装月間」

グローバルな特徴が出ているのが民族衣装月間。毎年7月、8月は家にあつて、また土産で買って来たけど普段着られないような派手な民族衣装を着てくることで楽しんでいる。

### 「韓国・テバン教会と姉妹教会交流」

世界宣教月間では夏はよく海外に行くのでその報告礼拝をしている。もう一つ重要なのは韓国のソウルにある大方（テバン）教会（教会員1500人の長老教会）と姉妹教会となってもう、14年。毎年プログラムを持ち、中学生を30人くらい送ると、向こうからまた30人来る。青年が行くと青年が来る。婦人が行くと婦人が来るという形で既に約500人が延べにすると往復している。

2008年には45人の中高生が訪韓して向こうの子どもたちとフォークダンスをした。2009年は13人の壮年が主任牧師を含めてやってきた。今年、2010年は壮年が行った。

2011年は春に婦人がやってきて秋には婦人がこちらから行く予定。25人ずつの訪問だ。非常にさわやかな国際的な楽しい交わりの会を持っている。

### 「キリストにある神の家族」

もう一つの理念は「全年齢層が憩う」ということ。「教会はあらゆる年齢、あらゆる階層の多様な人々があらゆる隔ての壁を超えてキリストにあって一つとなった群れである。そこには一切の区別がない。それはキリストにある神の家族であって愛のうちに立てられるのである。それ故私たちはこの群れに属するあらゆる多様な人々への霊的配慮を志し、全年齢層の人々がそれぞれの健康状態や生活状態に応じてふさわしい豊かな信仰生活を送れるように努力する。また、そのために必要な施設や設備を備えることを努力する」。

特に「喜楽希楽会」というのは、65歳

以上のお年寄りが集まる会だ。本当に楽しい会だ。20年間やって40個所くらいの温泉に行った。この辺の温泉はほとんど行った。日帰り旅行もする。2カ月に1度旅行している。幼稚園バスで運転手は教会スタッフやボランティアがやる。1月は新年会、2月は観梅、4月は花見、9月は幼稚園の運動会に招待、10月は一泊温泉旅行、12月はクリスマス会と多彩だ。忙しい。楽しい。

### 「旅行先の教会を訪問」

旅行先の教会を訪問し、そこの牧師からメッセージをいただく。このコンタクトの役割は私だ。私の仕事。「這ってでも行こう」というのがモットーだ。これって、大切なんです。「ちょっと、具合が悪いから」の理由で行かなくなると、それで終わり。もう、いけなくなる。

### 「高齢者向けプログラムの企画」

大抵の教会には高齢者のためのプログラムがない。だから高齢者は教会から遠ざかる。高齢者のためだけのプログラムを企画、毎月第4火曜日は高齢者が対象の「喜楽希楽会」が開かれる。礼拝から始まり、ちぎり絵や暑中見舞いはがきの作成、ファミリーレストランにも出掛ける。

### 「牧師館の応接間でデイケア」

旅行に行けなくなった高齢者が増えてきたため、1998年から毎月第2火曜日に、牧師館でデイケアを始めた。利用者は千円を払い、ボランティアが昼食をつくる。食後は牧師館の応接間でトランプゲームなどを楽しむ。

### 「喜楽希楽サービスがスタート」

ボランティアによる介護に限界を感じていた頃、介護保険法が成立し、2年間の準備の後、2005年9月1日から在宅介護と通所介護をする介護保険指定事業「喜楽希楽サービス」を始めた。デイサービスは平均で定員15人。月曜日から金曜日まで。訪問介護や、ボランティアの介護タクシー、バスによる教会の送迎もある。

### 「人生の最後の最後まで寄り添う」

このスタートは高齢者教会員への対策から発展し、花開いたものだった。「神の家族」が、極度の寂しさに取り残されないよう、年齢にふさわしい教会生活を人生の最後の最後まで送れるよう寄り添うことを目指した。長期入院者などには出張聖餐式も。

### 「地域に輝く」こと

最後は「地域に輝く」というのがめぐみ教会の理念の5番目だ。「キリストの教会はその福音の普遍的力の故に全人類的であり、その交わりの故に世界的であり、その信仰の故に天的なものである。しかし、教会は聖徒の群れとして地上に存在する。そこで教会の使命は「地の塩」「世の光」となって地域に輝くことである。それ故私たちはこの地域に宣教し、キリストを知ることの絶対的な価値を証する努力をする。私たちはこの地域に根付き、反聖書の迷信を清めつつ、キリストに深く根ざして教会を取り巻く文化とも密接な関係を持つ土浦めぐみ教会を立て上げる努力をする。私たちはこの地域社会の人々に仕え、時には警告し、あるいは先導し、可能な限りの諸活動を通して地域福祉と平和のために努力する」

地域に輝く一つは幼児教育だ。「マナ愛児園」という幼稚園をやっている。周りに田んぼがあったり、土地があるので自然の中で子どもたちを育てている。幼稚園に入る前の子どもたちのために、マナ愛児園に来る前のプリマナという入園前の親子クラスを木曜日と金曜日にやっている。正月は幼稚園の園児や外国人を迎えて餅つきをする。

### 「主よ、御心をなし給え」

地域に輝くもう一つは、介護保険指定事業をしていること。居宅介護、通所介護、訪問介護、介護タクシーをやっている。スライドは、デイサービスの通所介護の様子。それぞれの都市にふさわしく、輝くことができるように努力をひたすらに続けている。

理念の最後はこのようにまとめている。「このような教会の理念を確認し、その実現のために最善を尽くすことを決意した上でなお私たちは告白する。土浦めぐみ教会を育て、成長させるのは父なる神であり、私を主イエスの証人とさせるのは聖霊の業である。教会の頭にして誠の所有者はキリストであり、私たち自身ではない。それ故に私たちは祈る。主よ、御心をなし給え」。

こんな大柱を持って、そして信徒の皆さん、自由にいろいろな活動を生み出してきているのがめぐみ教会の現状だ。

### 清野 勝男子牧師 プロフィール

1990年4月、日本同盟基督教団土浦めぐみ教会主任牧師。明治学院大卒、日本基督神学校、フラワー神学校大学院、JEA世界宣教委員会委員、宣教学博士、ケーブルテレビ番組「わくわくパラダイス」開始。東京キリスト教学園非常勤講師。著書・「宣教師ハンドブック」、茨城県出身、66歳。

# 「私は見た。あふれるばかりのにぎわい」

## ～写真で見る土浦めぐみ教会のある日の礼拝～

上松 寛茂（上尾合同教会員）



第2礼拝（午前10時から）



第3礼拝（午前11時半から）

### 「シンプルな礼拝」

礼拝のリタージ（順序）はきわめてシンプルだ。初めに賛美歌、ここでは聖歌、信徒による司式者の祈り、続いて主の祈り、この後、すぐ礼拝説教に入る。牧師の祈りのあと、聖歌。献金はなく、頌栄、祝祷、テーマソング（教会歌）で終了する。正味1時間。礼拝説教の時間は30分前後。礼拝時間に占める説教のウエイトは高い

2月6日、千葉県土浦市の日本同盟基督教団土浦めぐみ教会の礼拝に列席した。埼玉地区壮年部ニュース「埼玉・教会・壮年」第10号に掲載するルポ取材が目的。

「水田地帯の教会堂」「駐車場で交通整理」「後方に水門」



JR土浦駅から巨大ショッピングセンター「イオン」直行路線バスで約10分。教会はイオンに接している。辺りは水田地帯。見通しは抜群だ。教会の玄関前には、数キロ先の霞ヶ浦や土浦港、太平洋へと注ぐ桜川が流れ、桜並木が続く土手沿いに位置する。目の前に大きな水門。

教会の入口には300台入る駐車場の交通整理をする会員数人が迎えてくれた。その一人が礼拝堂までの道のりをエスコート、受付で訪問の挨拶をすると、「お待ちしていました」。あちこちで呼び掛けられ、びっくり。前夜、突然の教会訪問を「牧師に伝えて」と伝言、情報の共有の周知徹底ぶり、そのチームワークはすごい。



礼拝では、新改訳の聖書を用い、この日の個所はピリピ人への手紙3章5節から6節。説教題は「両親の熱意」。ローマの市民権を持ったパウロの誕生のいきさつから、信仰継承の大切さを訴えた説教だが、清野牧師は会衆に「パウロ先生は…」と語り掛け、対象への親しみやすさや分かりやすさを工夫した話し方をする。



「パワーポイントで表示」「礼拝堂の後方で操作」

扇形の礼拝堂に会衆が約200人。ほぼ満席だ。意外に若者たちが目立つ。後方には車椅子の女性も。礼拝堂正面の左右上方の白い壁面にパワーポイントによる聖書、聖歌の文言が次々と映し出され、聖書や聖歌を持参しなくてもOK。拡大文字の重い旧新約聖書を持たなくて済むのは高齢者には好評。礼拝は午前中に3回ある。朝8時半からと、10時、11時半からのびったり1時間。第2と第3の礼拝に出席した。



「自由献金箱」

席上献金がないのには驚く。教会入口の所に献金を自由に捧げたい人のためにステンレス製の献金箱が据え付けられていた。席上献金は半強制的？と新来者に配慮し

て止めたとか。また、聖餐式も年12回から4回に減らしたという。革命ともいえる大改革だ。



「にぎわい見せる教会の庭」

午前11時。第3礼拝が始まるまでの30分間、外に出てみた。子どもも大人も大勢いる。むしろごった返していると言った方がふさわしい、にぎわいぶりだ。滑り台などの遊具で遊ぶ子、ボール投げやバスケット、卓球に興じる若者、談笑するお年寄りや壮年、婦人層の群れをあちらこちらで見掛ける。礼拝堂に隣接した納骨堂の脇の芝生に座り込んでいる中高生の分級らしき光景を発見。輪の中心で語り掛けている壮年の信徒指導者は既に第1礼拝に出席、それを済ませて若者たちに対応する。

名物「礼拝の裏番組」である。

この後、11時半からの第3礼拝に出席。第3礼拝も座席はほぼ満席。礼拝の説教や聖書箇所、歌う聖歌の番号もすべて第1、第2礼拝と同じ内容の繰り返し。1日600人の信徒がこうして入れ替わるという。



礼拝が終わっても礼拝堂内で挨拶を交わしている姿を散見する。礼拝が終了するといったんは即座に礼拝堂を出させる教会もある中で、柔軟な姿勢が取られている。新来者の私に声を掛けてくれる信徒が続々。かつて「農林水産省に勤務していた」とか、盛岡地検の検事だった弁護士さんとか、気軽な声掛けがうれしい。

ロビーでは韓国語や英語が飛び交う。特にハングル文字の案内板が目をはひく。在日など韓国・朝鮮籍の信徒が40人前後いるという。地方都市にもグローバルな国際化の波が押し寄せている。外国人向けクラスもある。



「教会の一角にキリスト教書店」

玄関入口の右側にはキリスト教書店があり、土、日の2日間オープンする。福音系の出版社の書物が大半だが、

けっこう混雑していた。



「壮観な食事風景」「後方は食券を買う長蛇の列」

礼拝後、平日はデイサービスに使用されているという大食堂へ。食券を買う人の長蛇の列には息を呑む。壮観な食事風景だ。名物「めぐみうどん」。1杯200円。新来者は無料。



名物「めぐみうどん」「キムチも添えて」



うどんと汁が入った使い捨ての紙どんぶりを渡され、昆布やネギ、油揚げなどはテーブルに並んだお皿から各自が自由にとるシステム。1日で350食?用意するという。「家族5人で昼食は千円で済みますよ」、「実際は、一日何食用意しているかは知らないんですよ」と、食事を共にして下さった清野牧師は笑った。



「新中1生の事前保護者会」



「子どもたちのボール遊び」



「和室の入口にハングル文字」



「モダンな納骨堂」「脇の芝生で中高生の分級？」

食後、納骨堂へ。ミニチャペルのモダンなたたずまいだ。葬式という通過儀礼を大切に、教会の主要行事としてその在り方を追求してきたというだけあって、内容は実に濃い。講壇の裏側が納骨堂になっていて、それと言われなければ分からない雰囲気だ。納骨棚のある対面のテーブルには造花の生け花と、亡くなった方の生前の写真や言葉が添えられたアルバムが置かれている。納骨された生前の会員の様子が手に取るように分かる。



介護保険指定事業などの福祉事業の展開は日曜日のためその様子は見られなかったが、「このような環境、配慮が行き届いた教会なら信徒は一人寂しく消えてはいかないだろうな」との感想を抱きながら教会を後にした。



「地域に貢献、喜ばれる教会に」「千人規模の礼拝が目標」

「神の国のビジョンに生きる教会」

～ゆりかごから天国まで～

日本同盟基督教団 西大寺キリスト教会  
主任牧師 赤江 弘之 先生

#### 「コミュニティーチャーチ構想」

私たちの教会はコミュニティーチャーチ構想を持っている。市民教会である。赤ちゃんの時から天国に帰るまで私たちは地域教会でつながっているのだ。そのことが神の国の建設に大きく寄与するのだと認識し、神の国のビジョンに生きている教会である。

#### 「はだか祭り」で有名」

まず、西大寺（さいだいじ）の地域と歴史を最初に紹介しながら、私たちのロケーションと歴史的背景を少し知っていただく。昨日夕方、大宮に着いた。毎週のように上京しているが、どうも大都会はなじめない。大宮も大都会ですが、西大寺は岡山市東区西大寺にある人口数万の町である。日本三大奇祭の一つ「はだか祭り」で有名だ。一番寒い頃、2月の第3土曜日に行われる。死者が出ることもある。岡山という所は、私どもの住んでいるもう少し南に戦国の武将、宇喜多秀家の本拠地があり、岡山市とその周辺には奈良県天理市の天理教と並んで幕末期の3大新宗教に数えられる黒住教の本山や金光教の本部がある。

#### 「文化的宗教的背景のある岡山」

岡山には文化的宗教的背景があり、それが地域の人々の生活に密着している。伝道が困難だと言うつもりはない。異教的宗教的文化の背景が日本のほとんどの地域がそうだと思う。大宮教会もここに来る道は氷川神社への参道でした。まさにそういう宗教的背景の中で私たちはイエス・キリストの福音を述べ伝えている。

#### 「宗教に熱い地域はキリスト教にも」

最初のころは困難だと思っていた節がある。ある時から自分の考えが変わったように思う。どう変わったかという、これだけ宗教に熱心な地域はキリスト教にも熱心な人々だろう、と思うようになった。こういう人々をキリスト教に変えるのは大変だということではなくて、神道、仏教を背景にしていた江戸時代の人々が確かにそれを基としながら、新しい宗教ムーブメントの中で生活を変えていき、その宗教の中で新しい時代の新しい宗教ムーブメントが起こり、それがいまだにずっと続いている。基本的に霊的渇きのある熱心な地域だ。ひとた

び福音に目が開かれたら、大きく変わるだろうというのが私の考えだった。このような見方をすれば、市民教会、後で申し上げる千人教会というのは途方もない夢ではないと、思い直した。現に異教徒がやっている。それをクリスチャンがビジョンを持たないことはないだろうと思った。

ここで西大寺教会の歴史を紹介したい。教会の始まりは1930年(昭和5年)。創立者は佐藤 邦之助師(1894年~1981年)。古くは沢村 五郎師(関西聖書神学校創設者)、小島 伊助師(日本イエス・キリスト教団初代委員長)というB・F・バックストーン宣教師(日本伝道隊)の流れをくむ高弟三羽鳥といわれたうちの一人だが、鳥取県米子生まれ(編注・島根県大原郡木次町=現・雲南市木次町の説も)の佐藤師は岡山で12の教会を生み出した。明治時代に。当時はあまり公共交通機関がなかったころだ。

### 「所在地も転々、合計11箇所」

所在地も転々と変わり、中国からの引き揚げ者住宅が礼拝所の時もあり、合計11箇所、私が行ったとき、三軒長屋の一軒に西大寺キリスト教会の看板が上がっていた。間口2間半の1階と2階部分の、長屋の教会だった。1975年に、私が行ってから5つの家庭、青年たちが家庭を開放して教会学校の分校をつくった。合計すると、もう入り切れない人数なので市民会館を借り、合同のクリスマス会をしていたにぎやかな時代があった。この当時は教派を問わず、教会学校はどれも盛んだったと思う。この後、1980年ごろから急激に子どもたちが教会から姿を消し始める。

私は1972年にこの地に遣わされた。私で4代目。これから6年後、いきなり長屋から830坪の土地を買い、自分たちで業種別発注をして基礎工事や、いろいろな作業を自分たちでやった。500人から600人入れる計画を持っていた。

### 「教会の玄関に納骨堂のベテルの塔」

1993年に教育館を建てた。宗教法人立の教会附属「サムエル幼稚園」という。教会の玄関に「ベテルの塔」、納骨堂がある。「ゆりかごから天国へ」というのは実はこの部分がシンボルになっている。玄関にある。なぜ玄関にあるのか。お寺さんは本殿の裏に墓地がある。私たちの教会は、入口に墓地があるというのは、天国の門であるから天国で礼拝をしている方々と地上で礼拝をする者が、共に正面玄関の入口を通して入ること。周囲50メートル範囲内の住民の了解で市の許可をもらえた。

### 「地域に根ざす教会」

ベテルの塔の右側に幼児広場がある。一日中、幼児が親子連れで遊んでいる。私たちが地方で目指しているのはお寺の境内で近所の人たちが遊んで檀家になっていくというそんなイメージで、地域に根ざす教会を考えた。教会の前を広い空き地にしてるのは都会から見ればもったいない。しかし、私たちはこれを優先的に活用している。

### 「ケアサービスあい愛」

教会の右後ろの教育館は、無認可で補助金なしの幼稚園。20周年を迎えた。600人の卒園児を出した。それにつながる300坪も既に買い取り、奥の方を教会のN

PO法人の在宅介護サービスの「ケアサービスあい愛」の有料老人ホームを建てようとしている。

### 「地方伝道は困難、というのは嘘？」

「ゆりかごから天国へ」の最後のプロセスが老人ホームだ。それを今、奥に建てようとして準備中だ。ここは今、調整区域で、超安値だ。「地方は伝道が困難だ」というのは一面的な見方ではないか？嘘だ。地方にいるからこういう展開ができる。地価の高い都会にいたらこういう発想はできなかつたと思う。開発許可が3カ月、4カ月、半年待っているのだが、やっと動き始めた。

### 「教会立のチャーチスクール」

これから500人収容の多目的ホールや現在持っている小学校、中学校、高校の教会立無認可学校、チャーチスクールの第2教育館を併せて建てる予定だ。駐車場も祈って広げたい。

牧会スタッフは私たち夫婦と、西村 敬憲牧師夫妻、佐野 泰道牧師夫妻、それに女性伝道師2人のメンバーだ。3つの伝道所には牧師1人、宣教師一組、このほか、独立した教会は7つある。

礼拝出席者は平均220人。千人規模を目標としているが、同時に「子教会」を産んで独立させるという両建てをしている。幼児から高校生まで合わせて200人の教会学校の生徒がいる現状だ。

### 「牧会理念とビジョンを共有」

牧会理念とビジョンを共有する。教会のリーダー、あるいは教会員の信徒たち、広くいろいろな人を迎えながら共有していく

公共の働きに参加していると思っている。内輪で仲良く小さくまとまればいいという概念は持っていない。大きいのが好きか、小さいのが好きかという個人の好みはこの際、関係ない。神の視点で見たいと思っている。神様は教会をどう見ていらっしゃるか。私たちは神の教会をどう見るべきか。

### 「聖霊と祈りと御言葉」

動力は聖霊と祈りと御言葉だ。これを原動力として私たちは福音の風を送ろうとしている。人間の力、頑張りではなくて、聖霊様の働きであり、祈って、明け渡して委ねて主を待ち望んでいく、神の御言葉に力がある。だからどんなときにも絶望しない。

### 「伝道と育成と奉仕」

教会の働きは3つだ。伝道と育成と奉仕。これを私たちはどこから学んだかということ、イエス・キリストの地上でのお働きを、その体である教会が受け継いでいる。これが以下の聖書の御言葉だ。「イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を述べ伝え、ありとあらゆる病気や患いを癒された」(マタイによる福音書9/35~38)。3つの要素は「会堂で教え、福音を述べ伝え、癒された」という、三点である。私たちの教会の働きが教育を大事にし、包括的である理由はここにある。

### 「日本の教会で忘れてしているもの」

伝道して救われた人を教育したのではなく、述べ伝えながら教えたのだ。教えながら述べ伝えたのだ。マタイの11章1節にきちんと書いてある。これを日本の教会は忘れていていると思う。まず伝道、次に救われ

た人に教育、教育は救われた人にしようと考えている。イエスは違う。イエスと弟子たちは御言葉を述べ伝え、伝道した。これを忠実にやっているグループがある。「エホバの証人」だ。家々で1年、2年かけて聖書の全体を彼ら流に教えている。信じたら伝道者だ。日本のプロテスタントのクリスチャンたちは、教会に来てすべての重荷を下ろして「やれやれ、もうこれで楽になった。もう勉強は嫌だ。散々学歴社会の中で差別され、苦勞したからもう勉強はしたくない。教会でも勉強するのか」と、教会教育に抵抗感を持つ。でも、異端は間違っているのに学び続ける。だからドンドン増える。聖書の内容は誤解していても、伝達の仕方、方法論は正しいといえる。

### 「テキスト＝永遠への道」

私どもは子どもに伝道、教育をし、そして学校教育もする。聖書の内容、キリスト教の世界観、福音の神髄を教える。しかも個人伝道で今、「永遠への道」という個人伝道テキストを持って、キリスト教の聖書の全体像を知っていただく。その上で、「私どもはこう信じていますが、あなたがお信じになるかどうかはあなた次第です」。まず知っていただく。「信じるかどうかはあなたのご自由です」。「私どもは提供するのが務めだから最初から信じるかどうかはご自由ですよ」「信じなくてもいいですよ」「聞いていただけるだけで幸せです」。こういう姿勢でお仕える。聞いた人は神の声を聞く。イエス・キリストは、「私は私の羊を知っており、羊は私の声を聞く」とある。羊は神の声を聞くのだ。これは、教育的個人伝道である。

### 「信仰の決断を急がせない」

聖書のメッセージの全体を聞くと、「ああ、こっちの生き方が本当ではなかったか」と思って、人生をまともに考える。それが分からないのに、知らないのに、信仰の決断を急がせない。自分の人生や生活を変えてまでかどうかは、社会人となっていれば中身の福音の全体像を知らなければチャンネルのスイッチは入らないのだ。だから教育的な伝道で、しかも、個人的信頼関係の中でコツコツコツコツやるのが日本のようなこういう社会と状況の中では大切だ。

### 「あんたの言うことなら聞くよ」

人間関係の社会の中では、「あんたの言うことなら聞くよ」という。だから都会も田舎も関係ない。これで500人ほどの人が洗礼を受けた。信徒がこういうものを使えるかどうか、みんなが取り組めるかどうか、そういうことが信徒教育の一つの目的にもなる。イエスは会堂でも教えるが、家々でも教える。述べ伝え、癒された。社会的な責任を果たそう。地域の社会的責任で、これが老人福祉の問題であったり、医療であったり、あるいは幼児教育の問題であったり、人々の社会的、時代的、地域的な必要性にお答えすることが「愛の業」だ。ほかにも社会的に手を差し伸べなければならないことがあると思う。こうした教会の社会的責任と、御言葉を述べ伝えることと併せ、伝道と奉仕が合わさると幅広い意味の宣教という理解になる。

### 「ローザンヌ誓約」

戦後、私は「福音派」と呼ばれるグループにいたが、社会的な業ではなく、伝道す

るのが教会の働きだと教えられた。1974年のスイス・ローザンヌでの世界大会でそういうことを決定した。でも、自分たちの地域でそれを実践している教会は少なかった。私たちは「ローザンヌ誓約」とDr. ジョン・ストットの「解説」を学んで私たちの教会の在り方を変えようと考えた。

千人教会で「ゆりかごから天国まで」というのは、本来イエス様がなさっていたことだ。これが牧師と信徒が共有している牧会理念だ。「御国の福音を述べ伝える」とある。イエスは「神の国」を最初から語られている。「御国は近づいた」と地上の働きを始めたのだ。イエスの福音は御国の福音だったのだ。私どもの理解では、教会形成というのは伝道することにより神の国を立ち上げていく働きとして私たちはそれを委ねられていると分かった。もっと神の国を意識しなければいけない。そう思って聖書全体を見ると、なんと新約聖書は旧約聖書から受けついで神の国の全体を語っているかが分かってきた。私どもは地域に向かって仕える愛、神を愛する真の礼拝者となる。教会が本当の意味で教会になっていくという意味で、なぜ自分は神を信じているのか、福音は何なのか。それを学び続けるためには自分自身が聖書を学ばなければならないし、聖書の教理を学ばなければいけない。

### 「聖書的世界観をもつ」

ただデボーションが良くできるというのではなく、異教的世界観の中でそれをも包み込むような聖書的世界観をクリスチャンが一人一人持たなければいけない。そうすると神様を信じ、罪が分かってイエス様を信じるだけではなく、この世界は何のため

につくられ、人間は何のためにあって、何のために私たちは生かされているのかという意味の、そうした世界全体を包み込む世界観を持たなければいけない。「日曜信者」ではなく、日曜日だけが聖なる日ではなく、あとの6日間も聖なる日であり、教会堂を一步出て俗なる社会も、俗なところはどこもなく、職場も地域社会も、自分に関わる人間の生の領域にかかるすべてのことは聖なる事柄である。そこに最前線に自分が遣わされているという自覚の中で生きていく世界観、牧師だけが聖職ではなく、信徒もまた、それぞれの領域で、あらゆる分野で社会に遣わされていく。前から言われている「万人祭司」を文字通り理解する指導者の育成は子どもの時からしないといけない。そうすると教会学校で問題は小学校高学年、中学生だ。彼らは「教会で教えられていたのは間違っていたよ」と、世界観を根底からひっくり返されてきた。

### 「日本の教会が怠っているもの」

どうして日本の教会が、数が増えないのか理由がある。人が救われないからではない。かなり救われているのだ。救われているが、歩留まりが弱く少ない。ざるで水をすくうように漏れているのだ。クリスチャンホームの子どもたちが残らない。教会に結び付かない。信仰継承ができていない。新しい若者たちの獲得以前に、教会にいる子どもたちをしっかりとフォローして自信を持たせて福音によって根付かせていくことを日本の教会は怠っているのだ。それは公教育信仰だ。それは文部科学省信仰だ。文科省と敵対するつもりはないが、別の対策を持たねばならない。

### 「信仰の在り方が問われている」

学校にいたら、教会に行っていることや聖書の神を信じていることを言いつらくなる。いや、それだけではなく、本当のことは幼稚なことである、と思うようになっている。手をこまねている私どもの信仰の在り方が問われているのではないか。そうするとキリスト教世界観に立つ一般教育をしないといけないのではないか。そうして私たちは幼児教育を始めた。幼児教育を始めるとやはり、大事なのは教会付属の小学校がほしいという話になった。なかなか学校教育法の壁は厚くて高くて越えられない。

### 「フリースクール、教会版」

やっと8年前から取り組み始めたのが、いわゆるフリースクールだ。教会版で、これは日曜学校という教会学校とは違う意味の一般教育を、全学科、全教科を教える学校だ。教会が真の礼拝者となりつつ、地域に届いていくことを目指し、幼児教育をはじめ、いろいろなことを進めていく。それが大きく国や世界へ広がり、駆けめぐっていく。ミッションの働き、それが西大寺キリスト教会の基本構想だ。それがイエスの御国の福音を教え、述べ伝え、癒されたということの現代的適用であり、展開である。

### 「ボーイスカウト運動」

これを地域で考えると、今私たちが取り組んでいるミニストリーで、ボーイスカウトは西大寺で21年たったが、岡山県で一番大きい。金光教のボーイスカウト、ガールスカウトは岡山県で一番だった。今は違う。西大寺キリスト教会の育成団体の元にある西大寺第5団、今回の日本ジャンボリ

ーには28人が行く。この活動でリーダーシップなどを教えているが、幼稚園もボーイスカウト運動も斜陽になる頃から始めた。このように地域を超えた広がりの中に教会を生み出したり、宣教協力の働きをしたり、ラジオ伝道をやったり、幅広く教会協力の中で、様々な、時には全国ネットの働きをしたりして教会の働きが広がっている。

先ほど牧会理念を共有するリーダーたちと言ったが、教会の教職も信徒も、牧師であると、長老であると、執事であると問わず、一般の信徒をと問わず、共有している。特に牧師と長老は、私たちの教会は1990年以来長老制を取り入れ、長い準備期間の中で信徒長老と呼ぶ方々が牧師、教職長老と共に、牧会の責任を負っている。特に私は牧師セミナーの中でお話したことで自覚していることは、自分が牧師である、教会のリーダーであることを逃げられない。企業であれば会社が勝つも倒れるもトップリーダー次第だと言われている。一般の方々がリストラされたり、いろいろ厳しい査定があったりするのに教会の牧師たちは十分守られているのではないか。「針のむしろ」のようなことがあるかもしれないが。コンサルタントの方もいらっしゃるから、その方から私も学んでいる。

### 「牧師は指導者である自覚を」

教会のトップリーダーなのではないか。それはおごがましいと思っていたが、ロマ書12章8節に「勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい」。霊の賜物、ギフトとしての指導の賜物というのは牧師にとって一

番大事なものだということ、実は私の若き日の1984年、サドルバック・コミュニティチャーチのリック・ウォレン牧師から学んだ。私よりも10歳以上若い、日本に来たときのセミナー講師の一人だった。あの若造に教えられるかと思っただ、結果は「なるほど」であった。牧師にとって最も必要なことは指導性だ。賜物だから自分のものではないし、誇る必要はない。卑下するものでもない。自分の独りよがりではなく、他から認めてくださるなら、それは恵みであり、それは感謝というしかない。もし自分にそういうものがないなら、教会の中にいる、そういう指導の賜物を持っている方々と集団指導体制を持つべきだ。その点で私は「長老制」はとても良いと思っている。長老たちが指導する立場であることを自覚した方がいいと思う。教会の長老がそれを自覚しないことがむしろ高ぶりになるのではないか。

しかし、どこまでも仕える者であって、「謙遜でありなさい」というペトロの手紙の5章にある言葉は何よりも大事。私はある時から「そういうことを神様からお預かりしているのだ」と自覚するようになった。

### 「賜物としての神のビジョン」

もう一つはビジョンだ。ビジョンも神の賜物だ。ビジョンというのは誰のビジョンというのではなく、本来「神のビジョン」だということ。神様の見ておられる目線で世界を見、すべての被造物を見ることである。その点で主の祈りをあらためて見詰め直すと、「御名が崇められますように」。神様の栄光を現すこと。これが礼拝だ。「御国が来ますように」は神の国を前進させるビ

ジョンで宣教の働き、伝道の働き。「御心が行われますように」は、教育であったり、福祉であったり、医療であったり、様々な社会的な働きである。神の御心が、憐れみが地上で為されるように。これらを可能にする場は何であるか。それが教会である。

### 「地域教会としての誇り」

地域に根ざした教会である。教会の他には神の国を前進させ、神の御心を表すものはない。確かに地方行政も公共も大事だが、イエスがそれを託したのはローカルチャーチ、地域教会だ。そのことをクリスチャンはもっとも誇りに思い、自覚すべきではないか。それはまさに世界の希望は教会にある。どんなに少数であっても落胆することなく、少数であっても神の国の民として胸を張って宣教の活動を進めるべきだと思う。しかし、教会が小さいままで良いとは聖書のどこにもない。誇りと使命感を持ちながら、数にとらわれない心を持つ。しかし、神は成長を望んでおられる。両面を持って神のビジョンに燃やされていくことが大事だ。それを教職や指導者だけが持つのではなく、主の民、神の民、全体と共有することが望まれる。

### 「千人教会は一人の青年から」

西大寺教会でいうならば実は千人教会のビジョンというのは一人の青年が持った。1970年、昭和45年8月3日、夏期学校。小学校1年生の女の子が水死した。牧師と信徒の引率責任者は重過失致死罪に問われ、200万円の慰謝料を払い、その結果、教会はつぶれそうになった。私はその後、後任牧師として遣わされた。その時か

ら教会はグラフは上向きになった。実は私  
が行く前から上向きになり始めた。事故の  
後、青年たちが千人教会のビジョンを与え  
られて祈り始めた。信徒がそんな状況で。  
もう特別集会もできなくなって、ひたすら  
礼拝と祈りだけの時。しかも私が行ったと  
き、青年たちが「先生、私たちは千人教会  
になりたいんです。先生、どうですか」と  
言った。「そりゃ無理だろ」「何言ってるんだ  
」と言いかけた。それは私が間違っている。  
言うべきではないと思って、「そのようにで  
きるでしょうから祈りましょう」と言って、  
それからビジョンを共有し始めた。使徒言  
行録18章10節「わたしがあなたと共に  
いる。だから、あなたを襲って危害を加え  
る者はない。この町には、わたしの民が大  
勢いるからだ」。だから千人教会のビジョン  
を年寄りも若者たちも共有し、クリスチャ  
ンになるときに、洗礼を受けるときに私た  
ちの教会は「千人教会になりたいという夢  
を持っていますが、あなたはどうですか」  
と聞くと「そんなの無理です」と言う人は  
一人もいない。一応、格好だけでも、洗礼  
を受けようとしていますから「いいですね  
え」と言う。しめたものですね。

### 「枝の教会含め優に500人超」

牧師がトップダウンで言うのではなく、  
信徒が言って牧師がその重荷を担わされて  
一緒に歩んできた。私はひなびた町の小さ  
な町で一生を過ごし骨を埋める覚悟をした。  
千人になるまでは離任できないと思った。  
「船と一緒に沈む船長がほしい」と言われ  
た。一番開拓の頃からの老人だった。「よか  
ったら船の船長でおらして下さい」と言っ  
た。家内と一緒に覚悟した。「嫌だと思われ

たら、いつでも断って下さいね」とも言っ  
た。信徒の皆さんが牧師に替わってほしい  
と思っているのに私がずーっといたら迷惑  
ですから。でも、39年、一緒に歩いてき  
た。いまだに千人教会にはほど遠いが、た  
くさんの教会を生み出して、生み出した教  
会を加えると優に500人は超えている。  
でも、それは数に入れない。地元だけでそ  
うなりたい。ビジョンを共有するというの  
は神様が群れに与えられたものだ。みんな  
で共有する「ビジョン宣言文」(2005年  
教会総会で承認)は、サドルバックのもの  
を参考にして、西大寺向けにアレンジした。

### 「地域に喜ばれる教会」

次の千人教会は、「ゆりかごから墓場ま  
で」と言っていたのを「墓場」を「天国」  
に変えて、あらゆる分野で地域に仕えてい  
きたい。そうすると必然的に千人規模にな  
っていくのではないか。西大寺教会がある  
ことを地域の人々が喜んで下さる。誇りに  
思ったださるような教会になりたい。私は  
西大寺教会の名前を変えようと思っていた。  
教会の名前に「お寺」の字が入っているの  
はおかしいと、よく言われる。奈良の西大  
寺をイメージされることもある。役員会は  
何と言ったか。「嫌だ」と言った。「名前に  
愛着があるから」。「今、全国版になれない  
なら『将来、西大寺教会の名が全国にとど  
ろくような教会になればいい』と」。「アー  
メン」と言うしかなかった。

### 「全プログラムは3千坪の教会の中」

サムエル幼稚園からチャーチスクール  
(サムエル国際キリスト教学園)、ケアサー  
ビスあい愛、ベテルの塔など、「ゆりかごか

ら天国まで」の全プログラムはすべてこの約3千坪の教会の中にある。神の家族が一つとなって父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。子どもたちに教育と訓戒のプログラムを持ち、ご年輩の方々に希望を持っていただく。

それが一つの場所で神の国の建設を目指す。NPO法人の有料老人ホーム「あい愛の郷」を立ち上げる準備中で、なんと岡山で一番堅い中国銀行が約1億5千万円の融資決定。今、役所の許可待ちだ。

### 「若者向きにカフェ、音楽伝道」

開拓伝道では、モダンな建物でクロスロード・チャーチがあり、カフェ伝道、音楽伝道を若い牧師が展開している。今風の教会だ。親教会の長老たちはOKした。私は抵抗したが承認した。

小学校、中学校、高校に当たる初等部、中等部、高等部は、サムエル・インターナショナル・クリスチャンアカデミー、頭文字のSICAをサイカと呼び、屋内、屋外の自由な学びでみんな学校に来るのが楽しい様子。3人で始めたのにあんまり楽しそうなので、教会員の子どもがはじめ様子見だったのが「来たい」と言い出して親が送って来はじめた。

西大寺キリスト教会の機構図としては長老主義によって、上下関係なく、教職・信徒長老が中心で最終責任を持っている。長老会のもとに、執事たちが実務を担当しているシステムである。独特な長老制である。

12年前の組織図で、今は修正版を書いている。運営方法について現在絶版の「福音に仕える教会」の来年の出版を目指して7割方改訂版ができつつある。

### 「信徒が主役、教職は仕える」

平易な言葉で言うと、洗礼を受けた後は神の家族の一員となり、下足番も厭わずの言質を取るが、信徒が主役であり、教職は仕えている。ただ指導する立場として仕えている。信徒が奉仕するために牧師は立てられている。

### 「信徒も教職長老も同じ権限」

信徒も教職長老も共に長老会のメンバーで同じ権限だ。その意味で本当の聖書的名義の共同牧会、集団指導だ。長老になる人を育てる。生み出して育てていくということが、教会全体の中で信徒全体が学んでいくという底上げがある。執事職が実務をリードすることによって信徒はそれぞれの役割、与えられている賜物を教会形成の中で発揮する。ですから毎日のように早朝から深夜まで、信徒が自分の持ち場、立場を自覚しながら教会に出入りしている。

### 「自分の霊の賜物を活用」

この地域と世界に感化を与え、教会を通して、神の国を建設する壮大なビジョンを達成するために、すべての信徒が自分の霊の賜物を活用し、一緒に働く機運を生み出すリーダーでありたいと願っている。

### 赤江 弘之 牧師 プロフィール

関西聖書神学校卒業、日本同盟基督教団西大寺キリスト教会牧師、同教団理事長、東京キリスト教学園理事、日本国際飢餓対策機構評議員、西日本青年宣教大会実行委員長、著書・「永遠への道」「神の御手に抱かれて」、兵庫県出身。67歳。

## 地区壮年部の最近13年間の講演会等活動内容は次の通り。

### 1998年

- 2月22日 大宮教会 高齢者問題懇談会 「高齢化社会とキリスト者の役割」  
講師：河 幹夫厚生省社会局施設人材課長（同盟基督教団和泉福音教会員）
- 5月17日 埼玉新生教会 総会 開会礼拝「共に歩む教会 担い合う宣教の業」三永 旨従所沢武蔵野教会牧師
- 9月23日 県民活動センター 一泊修養会 ～24日（伊奈町）「人生の秋を豊かに」一聖書における老いの意味一  
講師：最上 光宏浦和東教会牧師  
信徒発題「信仰の継承」抜井 太郎壮年部委員（志木教会員）
- 11月15日 大宮教会 信徒修養会「会堂建築を成功させるには」信徒発題：松下 充孝大宮教会員  
「信仰継承の成果をあげるには」信徒発題：上松 寛茂上尾合同教会員

### 1999年

- 2月21日 大宮教会 講演会「いと小さき者の一人に」  
講師：天羽 道子かにた婦人の村施設長（千葉県館山市大賀）
- 5月16日 大宮教会 総会 開会礼拝 説教「私も働く」中谷 清熊谷教会牧師
- 6月20日 大宮教会 講演会「伝道へー礼拝からの出発」  
講師：小島 誠志日本基督教団総会議長、松山番町教会牧師

### 2000年

- 5月28日 上尾合同教会 総会 開会礼拝 説教「福音の伝播 クレ・シモンに学ぶ」高橋悦子桶川教会牧師
- 5月28日 壮年部創部30周年記念誌発行 総会出席者及び各個教会に配布 出席 18教会、32人
- 10月29日 大宮教会 講演会「高齢社会と生きがい」 出席 23教会 69人  
講師：山崎 美貴子明治学院大学副学長

### 2001年

- 2月25日 埼玉新生教会 総会 開会礼拝 説教「真の富」田中 かおる安行教会牧師 出席 13教会 39人
- 5月27日 大宮教会 講演会「ひとにぎりの土」  
講師：小澤 貞雄秋津教会牧師（多摩全生園）
- 10月14日 各ブロック「魅力ある教会づくり」（信仰の継承と教会員の高齢化）各壮年会員によるシンポジウム

### 2002年

- 2月24日 大宮教会 総会 開会礼拝 説教「失われるもの、実るもの」柳下 仁北川辺伝道所牧師
- 5月26日 大宮教会 講演会「自由において共に生きよう」  
講師：関田 寛雄青山学院大学名誉教授（礼拝説教も）

### 2003年

- 2月23日 埼玉新生教会 総会 開会礼拝 説教「神の御賞賛を目指して」中村 忠昭埼玉新生教会牧師
- 9月14日 大宮教会 講演会「老いを生きる」講師：阿部 志郎横須賀基督教社会館長、神奈川県立保健福祉大学長  
開会礼拝 「白髪になっても実を結ぶ」山岡 創坂戸いづみ教会牧師

## 2004年

- 2月15日 大宮教会 総会 「主を待ち望む」鎌田 康子越谷教会副牧師
- 5月16日 大宮教会 講演会 「聖霊の息吹を受けて」—信仰の継承を願って—  
開会礼拝 「枯れた骨の復活～預言者エゼキエルの体験～  
講師：いずれも大宮 溥日本聖書協会理事長、成瀬が丘教会牧師、阿佐ヶ谷教会名誉牧師

## 2005年

- 2月20日 大宮教会 総会 開会礼拝 説教「カナの婚礼」森 淑子狭山伝道所牧師
- 7月17日 大宮教会 「認知症の正しい理解—心のケアと信仰—」  
講師：長谷川 和夫認知症介護研究・研修東京センター長  
聖マリアンナ医科大学名誉教授、銀座教会員  
開会礼拝「主の恵みを共に～認知症への主の眼差しを読みとろう～石川 栄一北本教会牧師
- 9月23日 大宮市民会館 1日修養会「共に学び、共に考えよう～教会の成長～」講師：疋田 國麿呂大宮教会牧師

## 2006年

- 2月19日 大宮教会 総会 開会礼拝 説教「私は福音を恥としない」最上 光宏浦和東教会牧師
- 7月30日 大宮教会 講演会 「老いをどう生きるか～希望を支える信仰と老後～」  
講師：児島 康夫川越キングス・ガーデン施設長日本ホーリネス教団川越のぞみ教会員  
開会礼拝 「聖霊による無償の賜物が一人一人に」疋田 勝子大宮教会副牧師

## 2007年

- 2月18日 大宮教会 総会 開会礼拝 説教「福音と讃美」柳田 剛行台湾基督教会牧師 出席 15教会 28人
- 9月17日 大宮教会 1日修養会「共に生きる生活～教会の活性化～」講師：疋田 國麿呂大宮教会牧師
- 11月25日埼玉新生教会 講演会「国籍は天に」～特別養護老人ホーム・スマイルハウスのターミナルケアの試み～  
講師：仲矢 杏子スマイルハウス施設長  
開会礼拝 「ただ一つのこと」金田 佐久子西川口教会牧師

## 2008年

- 2月17日 大宮教会 総会 開会礼拝 説教「壮年の使命」竹内紹一郎深谷西島教会牧師 出席 14教会 26人
- 6月29日 大宮教会 修養会 開会礼拝 説教「生き生きと共に生きる教会生活」出席 13教会 60人  
主題講演「御言葉の聴き方について・共に生きる教会生活～ボンヘッファーの真実な交わり～」  
講師：いずれも疋田 國麿呂大宮教会牧師
- 11月16日 大宮教会 こうえん会 福音落語「めめんともり・石打ち」出席 14教会 66人  
出演：古琴亭 志ん軽（本名・齋藤 和夫氏）代々木上原教会員  
詩吟「西郷 南州・いつくしみ深き」

## 2009年

- 出演：豊川 耕颯（本名・豊川 昭夫氏）越谷教会員
- 2月15日 岩槻教会 総会 開会礼拝 「隅の親石」川中 真岩槻教会牧師 出席 13教会 31人
- 7月19日 大宮教会 修養会 開会礼拝 説教「すべての民を私の弟子にきなさい」出席 16教会 70人  
主題「これでいいのか？今の教会」～データから10年先の姿を観る～  
（資料 教団50年データ分析と提言 制作：教団予算決算委員会 CD-ROM 映写）

講師 いずれも疋田 國磨呂大宮教会牧師 司会 荻田 久次郎兄(越谷教会)

11月29日(日) 大宮教会 講演会 開会礼拝 説教「現代に合った伝道パラダイムの転換」疋田 國磨呂大宮教会牧師  
主題「四世代が喜び集う教会形成」～高座教会の取り組み～ 出席 12教会 71人  
講師 カンバーランド長老キリスト教会 高座教会 松本雅弘牧師

## 2010年

2月28日 大宮教会 総会 開会礼拝 説教「御言葉が栄える」石橋 秀雄越谷教会牧師 出席 14教会 23人

7月18日 大宮教会 修養会 主題「神の国のビジョンに生きる教会」～ゆりかごから天国まで～

講師 日本同盟基督教団 西大寺キリスト教会 赤江 弘之牧師 出席14教会 54人

11月28日(日) 大宮教会 講演会 開会礼拝 説教「主に用いられる弟子たち」疋田 國磨呂牧師(大宮教会)

主題「誰でもホッとする群れに向かって」～地域との結び付きを大切にする教会～

講師 日本同盟基督教団 土浦めぐみ教会 清野 勝男子牧師 出席 14教会 60人

## 定期総会・委員会の開催

### 2010年度(2010年2月1日～2011年1月31日)

定期総会 2月28日 大宮教会

委員会 2月28日 大宮教会、3月21日 上尾合同教会、5月16日 埼玉和光教会、7月18日 大宮教会、9月26日 春日部教会、10月17日 大宮教会、2011年1月16日 西川口教会

## 2010年度委員会組織

委員長 松下 充孝(大宮) 書記 島崎 光雄(武蔵豊岡) 会計 田島 章義(春日部)

委員 阿部 孝司(上尾合同) 和泉 雄寿(和戸) 岩井田 慎二(埼玉和光)

荻田 久次郎(越谷) 柏田 實(西川口) 高橋 幸好(浦和東) 樋口道成(岩槻)

協力委員 上松寛茂(上尾合同)

地区委員 壮年部担当 佐久間 文雄(志木)

## 日本基督教団関東教区

埼玉地区壮年部機関紙 「埼玉・教会・壮年」

NO. 10号 2011年2月25日発行

発行人：松下 充孝 編集人：上松 寛茂